

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：34410

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530507

研究課題名(和文) ソーシャル・ベンチャーにおけるソーシャルキャピタルと経営戦略の比較実証研究

研究課題名(英文) Social Capital and Management Strategies in Social Ventures: A Comparative Analysis

研究代表者

松永 佳甫 (Matsunaga, Yoshiho)

大阪商業大学・総合経営学部・教授

研究者番号：60325561

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：NPOの弱みは安定的経営に不可欠な資金力の脆弱さにある。そのためビジネスの手法を用いて社会的問題の解決を試みる社会的企業が注目されている。一方、現存する社会的企業が抱える不安は、次世代のリーダーが育ちにくいことである。社会的企業の存続・設立には熱い思いを孕む社会的企業家精神が必要不可欠である。アンケート調査により、どのような要因が社会的企業家精神を高揚させるか分析した結果、ソーシャルキャピタルを醸成することが、社会的企業家精神の向上に有効に寄与することが実証された。つまり社会的企業の次期リーダーを育成するには、単にビジネススキルだけでなくソーシャルキャピタル力を高める教育が必要なのである。

研究成果の概要(英文)：Social enterprises, unlike ordinary nonprofit organizations, are expected to play extremely important roles as financially sustainable suppliers of quasi-public goods as alternatives to central or local governments encountering significant budget deficits. However, most of the previous research regarding social enterprises reported case studies in terms of management skills of unique social entrepreneurs and no previous paper gives a clue in how to train the new generation of social entrepreneur. Since social entrepreneurship is a main engine for the creation of social enterprise, it is very important to examine what factors impetus to grow social entrepreneurship. The original survey in this paper revealed that an increase in social capital enhanced social entrepreneurship. Consequently, this paper suggests that not only opportunities for their followers to hone their business skills but also those to accumulate social capital should create the new leaders in social enterprises.

研究分野：社会的企業論、応用計量経済学、NPO論、公共政策

キーワード：社会的企業家精神 リーダーシップ ソーシャルキャピタル NPO 社会的企業

1. 研究開始当初の背景

これまで研究代表者が行ってきた『ソーシャル・ベンチャーにおける起業家精神および経営戦略に関する実証的比較研究(基盤研究(C))課題番号 21530425』と、一方で、申請者が積み重ねてきたソーシャルキャピタル研究の成果を基軸に、社会的企業家論とソーシャルキャピタル論を融合させることにより、次世代に持続可能な社会的企業を構築するために欠くことのできない社会的企業のリーダーシップ特性を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ビジネスの手法を用いて社会的問題を解決しようとする社会的企業の役割に対する社会の大きな期待を鑑み、社会的企業の設立や持続可能性を担保するために必要な社会的企業家精神と効率的な組織運営のために必要なソーシャルキャピタル(SC)との関係性を統計的に明らかにすることである。例えるなら、社会的企業の力強いエンジン構造(社会的企業家精神)の解明と、そのエンジンの動きを滑らかにする潤滑油(ソーシャルキャピタル)の醸成が社会的企業家精神を高揚させることを統計的に明らかにすることにより、持続可能な社会的企業の構築に寄与しようとするものである。

この目的を達成するためにまず、社会的企業のリーダーが持つ社会的企業家精神の計測方法について研究を行った。社会的企業家精神は、世代を超えて持続可能な社会的企業を構築する上で、リーダーが保持しておかなければならない重要なリーダーシップ特性である。社会的企業は、世の中の社会的問題をビジネスの手法を用いて解決することをミッションとするため、「社会的問題を解決して世の中に貢献したい」という非営利的な側面と「ビジネスのセンスを駆使して事業として成り立たせたい」という営利的な側面の両方を併せ持つリーダーが牽引する組織である。このような社会的企業家精神の特性はDees(1998, 2001)によって明らかにされている。この特性を社会的企業のリーダーが持ち合わせているかどうかについて、アンケート調査を実施することにより、社会的企業家精神の定量化が可能である。

一方、Putnam(2000)によると、SCは信頼、互酬性の規範、ネットワークから構成されており、豊かなSCは労働者間の意思伝達や合意形成を容易にし、生産性を高めたり取引費用を軽減したりする機能を持つ。先行研究を参考にSCの3要素の醸成について、アンケート調査を実施することにより、社会的企業のリーダーの持つSCを定量化することもまた可能である。

研究代表者はこれまで行ってきたソーシャル・ベンチャー研究とSC研究とを融合し、社会的起業家は他の起業家と比較して卓越して豊かなSCの持ち主であり、SCがソーシャル・ベンチャーの経営効率性に大きな影響

を与えているのではないかという検証すべき重要な仮説を発見した。また変革型リーダーシップと交換型リーダーシップ、リーダーの消極的行動、リーダーシップ成果の5つの指標それぞれと、それらの統合指標であるフルレンジリーダーシップ(Avolio and Bass, 2004の定義による)と社会的企業家精神との関係性についても、社会的企業のリーダーに対するアンケート調査を実施することにより、統計的な検証も行った。

3. 研究の方法

これまでの専門社会調査士(認定番号208号、社会調査士認定機構)としてJGSS(Japanese General Social Survey: 日本版総合的社会調査)に寄与した経験を活かしながら、社会的企業のリーダー特性およびソーシャルキャピタル力を計測するためのアンケート調査項目の開発を行った。NPO法人の組織形態を持つ社会的企業については、山内直人教授(大阪大学)作成のNPO法人財務データ・ベース(平成17年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)データ・ベース課題番号178058)を利用し、総収入に占める事業収入が占める割合が80%以上を占める組織をリストアップし、その割合が高い組織から順にアンケート調査票を送付した。そのほか、独自調査により営利組織の形態を有する社会的企業を探索し、アンケート調査票を送付した。アンケート調査費用の削減と回収率の向上を目指し、アンケート調査票の印刷はネット印刷業者を活用した。また「NPO法人しゃらく」にアンケート調査票の発送と回収を依頼した。アンケート調査票はマークシート方式としたため、一般的にアンケート調査費用の多くを占めるデータ入力に係る人件費をカットすることができた。「株式会社教育ソフトウェア」にマークシートの読み込みおよびデータセットの作成を委託した。

4. 研究成果

社会的企業のリーダーに対するアンケート調査により得られたデータセットをもとに、社会的企業家精神とマルチファクターリーダーシップおよびその5要素、並びにソーシャルキャピタル醸成との関係について分析を行った。その結果、下記のような分析結果を得ることができた。表1は、一部主要な分析結果を抜粋したものであり、表2は独立変数および従属変数に関する説明である。

- (1) モデル2の推定結果: Dees(1998, 2001)により定義された社会的企業家精神と変革型リーダーシップとの間には正の関係がある。またPatnum(2001)により定義されるソーシャルキャピタルの3要素のうち、ネットワークと互酬性の規範と正の関係にある。

[表 1a]

| 独立変数名 | 推定モデル 最小二乗法 従属変数: SES | | 推定モデル 2段階最小二乗法 従属変数: SES | |
|---------|-----------------------------|----------|--------------------------------|----------|
| | 係数 | 標準誤差 | 係数 | 標準誤差 |
| 定数 | -0.5543 | (0.4400) | -0.7027 | (0.8735) |
| AGE | -0.0049 ** | (0.0023) | -0.0052 * | (0.0031) |
| SEX | 0.0114 | (0.0649) | 0.0098 | (0.0649) |
| INC | 0.0152 * | (0.0091) | 0.0144 | (0.0099) |
| EDUC | 0.0279 * | (0.0154) | 0.0274 * | (0.0159) |
| HEALTH | 0.0382 | (0.0280) | 0.0348 | (0.0345) |
| RISKLF | 0.0808 *** | (0.0229) | 0.0756 ** | (0.0382) |
| ORG | 0.1917 *** | (0.0638) | 0.1852 ** | (0.0815) |
| PSTAFTE | 0.0042 ** | (0.0019) | 0.0038 | (0.0031) |
| MFLS | 0.8963 *** | (0.0959) | 0.9934 * | (0.5462) |
| TRFM | | | | |
| TRAC | | | | |
| PASAV | | | | |
| OUTC | | | | |
| KAISYO | -0.0329 | (0.0219) | -0.0326 | (0.0255) |
| PNETW | 0.0105 | (0.0080) | 0.0094 | (0.0099) |
| TRUST | 0.1384 ** | (0.0671) | 0.1344 ** | (0.0603) |
| PFMS | 0.0530 | (0.0347) | 0.0517 * | (0.0310) |
| BACK | 0.0164 * | (0.0099) | 0.0167 * | (0.0097) |
| | サンプルサイズ | 247 | サンプルサイズ | 247 |
| | 自由度調整済みR ² | 0.45 | 自由度調整済みR ² | 0.44 |

*, 10% 優位水準, **, 5% 優位水準, ***, 1% 優位水準
二段階最小二乗法の操作変数はCIVPOWとGENTV

| 独立変数名 | 推定モデル2 最小二乗法 従属変数: SES | | 推定モデル3 最小二乗法 従属変数: SES | |
|---------|------------------------------|----------|------------------------------|----------|
| | 係数 | 標準誤差 | 係数 | 標準誤差 |
| 定数 | -0.23943 | (0.4173) | -0.03526 | (0.4439) |
| AGE | -0.00505 ** | (0.0021) | -0.00509 * | (0.0026) |
| SEX | -0.03555 | (0.0651) | 0.00454 | (0.0685) |
| INC | 0.01213 | (0.0088) | 0.02093 ** | (0.0093) |
| EDUC | 0.02931 * | (0.0157) | 0.03246 ** | (0.0158) |
| HEALTH | 0.0281 | (0.0277) | 0.04921 | (0.0304) |
| RISKLF | 0.05944 *** | (0.0225) | 0.10126 *** | (0.0256) |
| ORG | 0.12063 ** | (0.0608) | 0.26219 *** | (0.0685) |
| PSTAFTE | 0.00386 ** | (0.0019) | 0.0048 ** | (0.0020) |
| MFLS | | | | |
| TRFM | 0.74036 *** | (0.0771) | | |
| TRAC | | | 0.46815 *** | (0.0682) |
| PASAV | | | | |
| OUTC | | | | |
| KAISYO | -0.03235 | (0.0212) | -0.02173 | (0.0233) |
| PNETW | 0.01203 * | (0.0079) | 0.01302 *** | (0.0087) |
| TRUST | 0.12726 | (0.0670) | 0.18836 * | (0.0670) |
| PFMS | 0.03884 | (0.0344) | 0.06466 * | (0.0368) |
| BACK | 0.00873 *** | (0.0100) | 0.01856 *** | (0.0102) |
| | サンプルサイズ | 247 | サンプルサイズ | 247 |
| | 自由度調整済みR ² | 0.48 | 自由度調整済みR ² | 0.37 |

[表 2]

| 変数名 | 説明 |
|---------|----------------------|
| AGE | 年齢 |
| SEX | 性別 |
| INC | 年収 |
| EDUC | 教育年数 |
| HEALTH | 健康状態 (主観) |
| RISKLF | リスクに対する行動 |
| ORG | 非営利組織 |
| PSTAFTE | 組織規模 |
| MFLS | マルチファクターリーダーシップ |
| TRFM | トランスフォーメーション・リーダーシップ |
| TRAC | トランザクショナル・リーダーシップ |
| PASAV | 消極的行動 |
| OUTC | リーダーシップ行動による成果 |
| KAISYO | 社交性 |
| PNETW | ネットワーク力の代理変数 |
| TRUST | 一般的信頼 |
| PFMS | 利潤追求と社会問題解決との間の優先性 |
| BACK | 利潤の社会への還元割合 |

(2) 交換型リーダーシップとの間には正の関係がある。また Patnum(2000)により

定義されるソーシャルキャピタルの3要素のすべて、すなわち信頼、ネットワーク、互酬性の規範と正の関係にある。

(3) モデル 4 の推定結果 : Dees(1998, 2001) により定義された社会的企業家精神とリーダーの消極的態度との間には負の関係がある。また Patnum(2000)により定義されるソーシャルキャピタルの3要素うち、ネットワークと互酬性の規範と正の関係にある。

(4) Dees(1998, 2001)により定義された社会的企業家精神とリーダーシップ成果との間には正の関係がある。また Patnum(2000)により定義されるソーシャルキャピタルの3要素うち、ネットワークと互酬性の規範と正の関係にある。

(5) モデル 1 の推定結果 : Dees(1998, 2001) により定義された社会的企業家精神と変革型リーダーシップと交換型リーダーシップ、リーダーの消極的行動、リーダーシップ成果の5つの統合指標であるフルレンジリーダーシップとの間には正の関係がある。さらに、検証の結果、フルレンジリーダーシップは内生変数としての特質をもつことを統計的に棄却できなかったため、二段階最少二乗法により推定を行った。その結果、Dees(1998, 2001)により定義された社会的企業家精神とフルレンジリーダーシップとの間には1対1の関係にあることが実証された。また二段階最少二乗法による推定結果より、Patnum(2000)により定義されるソーシャルキャピタルの3要素うち、信頼と互酬性の規範と正の関係にある。

以上の分析結果を鑑み、社会的企業研究とソーシャルキャピタル研究の両方に対する本研究の貢献を次のようにまとめる。

一般的な NPO (商業型 NPO をソーシャルキャピタルと呼ぶのに対して) のスタッフ間の円滑なコミュニケーション、ひいては円滑な組織運営にソーシャルキャピタルは重要な役割を果たしているといわれているが、社会的企業家精神とソーシャルキャピタルとは正の関係にあることが実証されたことより、ソーシャルキャピタルを醸成する取組は社会的企業精神を培ううえでも重要なファクターである。

一方、社会的企業家精神 (Dees の定義による) とフルレンジリーダーシップおよびそれを構成する 5 つの要素とは正の関係にあり、特にフルレンジリーダーシップと社会的企業家精神の間には 1 対 1 の関係が存在することも実証された。したがって、社会的企業家精神を社会的企業のエンジンとたとえるなら、変革型リーダーシップや交換型リーダー

シップをエンジンの部品にたとえることができ、ソーシャルキャピタルはそのエンジンを円滑に動かす潤滑油であると見なすことができる。

以上を鑑み、多くの一般的NPOに対して多くのインターメディアリーが実施しているソーシャルキャピタル醸成のためのプログラムに加え、フルレンジリーダーシップの育成プログラムを社会的企業のリーダー育成に流用することは、次なるリーダーを育成するうえで効果的な手法であり、世代を超えて持続可能な社会的企業を構築するうえで極めて有効な手段であるといえる。

(参考文献)

- Avolio, B. J. and Bass, B. M. (2004) Multifactor leadership questionnaire-Manual and sample set, Mind Garden, Inc.
- Dees, J.G. (1998) Enterprising nonprofits, Harvard Business Review 76(1), Harvard Business School Press, pp.55-66.
- Dees, J.G. (2001) The Meaning of Social Entrepreneurship, the Center for the Advancement of Social Entrepreneurship (CASE), Fuqua School of Business, Duke University, (http://www.caseatduke.org/documents/dees_sedef.pdf).
- Putnam, R. (2000) Bowling Alone, Simon & Schuster Paperbacks.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

1. Matsushima, M. and Matsunaga, Y. Social Capital and Subjective Well-being in Japan, VOLUNTAS: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations, Published online: 8 May 2015, 査読有. (DOI:10.1007/s11266-015-9581-3)
2. Ishida, Y. and Okuyama, N. Local Charitable Giving and Civil Society Organizations in Japan, VOLUNTAS: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations, Published online: 8 May 2015, 査読有. (DOI: 10.1007/s11266-015-9588-9)
3. Matsunaga, Y. Salary Commensurate with Social Capital, Applied Economics Letters, Published online: 11 Feb 2015, 査読有. (DOI:10.1080/13504851.2015.1008622)
4. 松島みどり、立福家徳、伊角彩、山内直人、 現在の幸福度と将来への希望 幸福度指標の政策的活用、近刊論文 (Early View)、2015、(http://www.jcer.or.jp/academic_journal/gaiyou/earlyview.html) 査読有。

5. Matsunaga, Y. Leadership and Social Capital in the Creation of Social Entrepreneurship- An Empirical Analysis of Social Entrepreneurs in Japan, EMES-SOCENT Conference Selected Papers, ECSP-LG13-59, 2013, pp.1-18, 査読無.

6. 山内直人、地域再生におけるソーシャルキャピタルの役割、季刊社会保障研究、Vol.49、No.1、2013、pp.71-80、査読無.

[学会発表](計12件)

松永佳甫 (2015) 社会問題発生予防策としてのソーシャル・キャピタル醸成政策に関する定量分析、日本NPO学会(於:武蔵大学).

松永佳甫 (2014) 非営利セクターの規模拡大要因分析 - 再び、日本NPO学会(於:関西大学).

松永佳甫 (2013) 社会的企業家精神と変革型リーダーシップに関する定量分析、日本NPO学会(於:東洋大学).

Matsunaga, Y. (2013) Leadership and Social Capital in the Creation of Social Entrepreneurship: An Empirical Analysis of Social Entrepreneurs in Japan, EMES International Research Conference on Social Enterprise (in Liege, Belgium).

Matsunaga, Y. (2012) Social Capital in the Creation of Social Entrepreneurship, International Society for Third Sector Research(in Siena, Italy).

Matsunaga, Y. (2012) Social Entrepreneurship, Leadership, and Social Capital in Japan, Association for Nonprofit Organizations and Voluntary Action (in Indianapolis, U.S.A.).

[図書](計1件)

(1) 松永佳甫編、公共経営学入門、大阪大学出版会、2015、280頁(pp.3-17、pp.72-115).

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

<http://www.k4.dion.ne.jp/~yoshiho/>

6．研究組織

(1)研究代表者

松永 佳甫 (YOSHIHO MATSUNAGA)

大阪商業大学・総合経営学部・教授

研究者番号：60325561

(2)研究分担者

山内 直人 (Naoto Yamauchi)

大阪大学・国際公共政策研究科・教授

研究者番号：90243146

(3) 研究分担者

奥山 尚子 (Naoko Okuyama)

神戸大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：80617556

(4) 研究分担者

松島 みどり (Midori Matsushima)

大阪商業大学・総合経営学部・助教

研究者番号：20634520